

受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

平成22年度 環境大臣賞 受賞	受賞者名	特定非営利活動法人 北九州ビオトープ・ネットワーク研究会
	所在地	福岡県北九州市
	受賞テーマ	市民の里山保全活動による伐材の再生利用と地域文化を通じた普及
	1. 活動継続 あり	

【建設資材としてアップサイクル】
竹林保全活動における副産物である竹は、地元の企業が開発した法面緑化材や舗装材・防草材などの建設資材の基材として活用し、アップサイクルによる地域資源の地産地消・第6次産業化に貢献している。

【環境学習による 3R 啓発】
児童を対象に、竹ポックリや竹鉄砲などの玩具作りを体験できる「こども竹細工教室」を開催。また、正月の門松など季節の風物詩にも活用や講演会に積極的に出演し、里山・竹林の保全と伐竹の活用について理解を拡げている。



夏休み子ども竹細工教室



エコ門松づくり

2. 活動の広がり あり
市民参加型の竹林保全活動は実施回数計 133 回、参加者数延べ計 5,154 人（2017 年 3 月現在）。参画数は 10 団体となり、継続実施により地域の景観および生態系の保全および伐竹のアップサイクルに努めている





市民参加型の竹林保全活動「平成竹取伝説」

3. 活動の進化 あり

【震災支援】

昨年4月の熊本地震から約1年経ち、インフラの復旧が進むのに対して身心のケアにおいては、個人差や手法の不明確さなどから、なかなか進んでいない(及んでいない)のが現状で、北九州市の竹を使った健康促進による支援を始めた。青竹踏みを制作し、現地の社会福祉協議会を通じて健康促進に活用していただいている。



青竹踏みづくり



青竹踏み完成品

【移住・定住支援】

本市への移住・定住を促進する事業の一環として、身近な自然とのふれあいや保全活動を通じて、北九州市に定住・移住される方の応援をしたり、北九州市の魅力を発信したりする「住むなら北九州市！応援団体登録制度」応援事業の一つとなっている。

【受賞履歴】

平成27年度 福岡県緑化功労者賞

4. 今後の計画

諸取り組みのベースとなる市民参加型の竹林保全活動とさらなる伐竹のアップサイクルを模索。そのために協働の多様性も図っていく。

(次頁に表彰概要掲載)

【表彰概要】

人が手を加えることで様々な植物が共存する里山は、管理が手薄になると竹林の侵食等によって生物多様性が失われる。全国有数の竹林面積を有する北九州市では、放置竹林の拡大による里山の環境・生態系への影響が懸念され、住民やNPO等の手で竹林整備が進められているが、伐採した竹の利活用が次の課題となっていた。同研究会では、市民・企業・大学が連携し、北九州学術研究都市周辺の市民ボランティアによる竹林整備を行い、そこで生じた伐竹を以下のように活用している。

<建設資材としてリサイクル>

竹を破碎・短繊維化して樹皮や在来植物の種子と混合し、法面緑化資材等に活用している。伐竹の最終的な利用方法を確立したことにより、里山保全活動の継続的な実践を可能とした。

<市民生活における活用>

家庭の生ごみを堆肥化するコンポスト化容器の基材に、ピートモス等の代替として地元産の竹短繊維を活用。

<文化継承による啓発>

児童を対象に、竹馬・竹ポックリ・竹鉄砲などの玩具作りを体験できる「こども竹細工教室」を開催。地域の高齢者を講師に迎え、人のふれあいによるコミュニティ醸成も図っている。また平成20年からは、「火まつり行事」の竹松明と竹灯籠、クリスマスのイルミネーション、正月の門松など季節の風物詩にも活用している。また、環境イベントに積極的に出展し、里山・竹林の保全と伐竹の活用について理解を拡げている。



伐竹作業手順の説明



法面緑化材の吹付け施工



こども竹細工教室



竹を使ったイルミネーション